

江東区 70年の歩み

今年、昭和22年3月15日に「深川区」と「城東区」が合併し江東区が誕生してから、70年になります。戦災の爪あとが残る誕生当時から、台風や集中豪雨による浸水被害、「ごみ戦争」など、幾多の苦難を経ながらも、本区は着実に発展を続け、今では歴史・伝統と先進性が共存する、魅力あふれる50万人都市となりました。東京2020オリンピック・パラリンピック開催という新たなステージを迎え、区民の皆さんが愛着と誇りを持ち、住み続けたいと思えるまちを目指して、「スポーツと人情が熱いまち 江東区」は、さらなる飛躍を続けていきます。

区制施行70周年記念特集

～戦争の荒廃から魅力あふれるまちへ～

略年表

- 昭和 22 江東区誕生
- 24 キティ台風・区内の被災者15万人
- 26 江東区の紋章を制定
- 32 夢の島のごみ埋め立て開始
- 38 辰巳水門、砂町水門完成
新葛西橋開通
- 39 東京オリンピック開催
- 40 夢の島八工騒動
若洲のごみ埋め立て開始
- 41 外郭堤防完成
- 42 東西線(大手町～東陽町)開通
- 44 東西線(東陽町～西船橋)開通
- 46 「ごみ戦争」宣言
- 47 区内の都電廃止
杉並区のごみ搬入を事実阻止
- 48 区役所庁舎が東陽4丁目に移転
中央防波堤のごみ埋め立て開始
- 49 教育センターオープン
新木場移転第1陣が営業開始
- 50 区長公選制復活
スポーツ会館オープン
- 52 区の木クロマツ、区の花サザンカを制定
- 53 有明で宇宙科学博覧会開催
都営新宿線(岩本町～東大島)開通
扇橋閘門完成
- 54 総合区民センターオープン
- 56 第1回江東シーサイドマラソン大会
- 57 児童会館、江東区文化センターオープン
- 58 障害者福祉センターオープン
第1回江東区民まつり開催
- 61 伊豆大島三原山噴火で、大島町民をスポーツ会館に受け入れ
江東区平和都市宣言
- 63 有楽町線(新富町～新木場)開通
- 平成 元 第1回江東こどもまつり開催
- 2 JR京葉線(新木場～東京)開通
- 3 パルシティ江東オープン
- 5 区のシンボルマークを制定
レインボーブリッジ開通
- 6 ティアラこうとうオープン
- 7 夢の島競技場オープン
ゆりかもめ(有明～新橋)開通
高齢者総合福祉センターオープン
- 8 りんかい線(新木場～東京テレポート)開通
- 10 新海面処分場の埋め立て開始
- 12 三宅島噴火で、島外避難者を受け入れ
カメラプラザオープン
都営大江戸線全線開通
- 13 「区民のちかひー江東区民憲章」制定
- 15 半蔵門線(水天宮～押上)開通
- 18 ゆりかもめ(豊洲～有明)開通
江東区防災センターオープン
- 21 江東区基本構想策定
- 23 東日本大震災
グランチャ東雲オープン
- 24 東京ゲートブリッジ開通
- 25 東京2020オリンピック・パラリンピック開催決定
- 27 豊洲シビックセンターオープン
- 28 区のロゴマーク決定

戦争からの復興 昭和20～30年代

昭和22年、深川区・城東区が合併して、江東区が誕生。戦争による荒廃からの復興の間、台風や集中豪雨による水害やごみ公害に悩まされながらも、人々の気力はあふれ、まちは発展をつづけました。



①東京大空襲直後の江東区(S20) ②発足当時の区役所(S22) ③煙突が立ち並ぶ工場地帯(S31) ④台風で浸水した亀戸駅前(S33) ⑤大横川で披露された角乗(S37) ⑥砂町銀座商店街(S39)

変わるまち並み 昭和40～60年代

数々の苦しみを受けた「ごみ戦争」。一方で、交通網の発展、河川の埋め立てによる公園整備、湾岸エリアの開発などが進み、まちの姿が大きく変わっていきました。



⑦五ノ橋付近から亀戸駅方面(S46) ⑧都電廃止(S47) ⑨ごみの搬入を事実阻止(S47) ⑩都営新宿線が東大島まで開通(S53) ⑪仙台堀川を埋め立て整備した砂町魚釣場(S56) ⑫第1回江東区民まつり(S58) ⑬青海地区(S60ごろ)

さらなる発展へ 平成～現在

平成に入り、さまざまな公共施設が完成。臨海部の開発も進み、平成27年には区の人口が50万人を突破しました。東京2020オリンピック・パラリンピックも控え、発展はさらに続いています。



⑭ティアラこうとう完成(H6) ⑮クローバー橋架設(H6) ⑯若洲公園風力発電施設完成(H16) ⑰建設中の東京ゲートブリッジ(H22) ⑱旧中川で開催されたこどもカヌー大会(H26) ⑲深川八幡祭り本祭り(H26) ⑳亀戸天神と東京スカイツリー®(H29)



知って得する! vol.12
東京2020オリンピック・パラリンピック
オリンピック まであと1231日
パラリンピック まであと1263日
来年2月に開催される平昌冬季大会に向けて、各地でウィンタースポーツの熱戦が繰り広げられています。2018年平昌大会(冬季)、2020年東京大会(夏季)、2022年北京大会(冬季)と、今後3大会連続でアジアでのオリンピック・パラリンピックが開催されます。アスリートの熱い闘いから目が離せませんね。